

令和4年度ふるさとのツバメ総調査作品コンクール

感想文の部

144校 2, 379点（調査票の一言感想も含む）の応募がありました。ありがとうございます。

最優秀賞 1点

「ツバメに気づかされたこと」

小松市立東陵小学校 6年 日置 心和

五月十三日、私たちは、西軽海町四丁目を調査した。天候は雨でツバメはあまりとびまわっていないかった。

調査をしてみて、大変だったことは、雨でかさを差しながらしたことだ。他にも、巣にひながいるのか、何ひきいるのかを確かめることも大変だった。でも、いつもあまり見ないツバメをしっかり観察し、興味を持つことができたのでよかった。

調べてわかったことは、三年前に比べてツバメが減り、古巣が多くなっていたことだ。このことから、環境の悪化やのき下などがないツバメに向いていない家が増えていることが原因だと思う。他にも、カラスやヘビなどの天てきが増え、おそわれやすくなったのも原因だと考えられる。

この調査を通して、ツバメが減ってきたことがわかった。ツバメが減ってきたということは、環境が悪くなっているのかなと思う。ツバメを守るために、ふるさとを守るためにもたくさんの人に興味をもってもらいたい。そして、環境がよくなるように、ツバメがあふれるぐらいたくさんいる町をみんなで作っていききたい。

優秀賞 2点

「はじめてのツバメ調査で…」

野々市市立富陽小学校 6年 山口 翔大

「あっ…あんなところにツバメがいた！」

ツバメ。ツバメという鳥は、自分たちの身近によく生息している生物だ。今回、調査にあたって、ツバメとの関係をさらに深められたと感じた。それは、今までは飛んでいるものをよく見たが、体や顔がよりくわしく知れたからだ。例えば次のようなツバメがいた。

調べていると、イワツバメが多くいた。イワツバメは、尾が短く、そして白かった。さらに、ツバメの目をはじめて見た。目はとてもやさしそうだということにも気が付けた。他にも、卵も見れた。ざらざらとしていたツバメの卵におどろいた。

この調査のおかげで、自分の町の自然の豊かさというものも学べた。いつもさりげなく見ていたツバメのしくみや実態がわかり、ツバメを大切にしたいと感じた。これからもツバメを発見し、地域の自然を知りたくなった。

「ツバメ調査」

津幡町立中条小学校 6年 倉知 ななみ

「礼儀・協力・感謝」この3つを達成できながらツバメ調査ができたと思うのでよかったです。1つ目の「礼儀」は会った人全員にあいさつをできたし、シールをわたしたり話をうかがう時も失礼のない話し方ができました。「協力」はみんなで協力して巣などを探せし、隊長だけががんばるのではなく、みんなが参加できていたのでよかったです。最後の「感謝」はツバメの情報を教えてくれた人にしっかり感謝の言葉を伝えられたと思います。

ツバメが年々減っているのでこれから自然環境をよくしたり、これ以上悪くならないために、私達がすぐ取り組めることを中心に進んで取り組んでいきたいと思いました。そしていつかは、ツバメが安心して過ごせるような自然豊かな町にしていきたいと思いました。また、これからもツバメのことをたくさん調べてみたいです。

佳作 2点

「ツバメ調査」

白山市立美川小学校 6年 高田 千聡

地いきの方々には、親鳥の仕事や自然で生きること、ツバメとの関わりなどいろいろ話しをしてくれました。その中で一番心に残ったのは「自然で生きること」についてです。地いきの人は、自然で生きるとはとても大変だと言いました。カラスからの守り、えさやりなどたくさんある中、人とツバメが協力してまもっていることにすごいと思いました。私の家の近くにもツバメの巣があるので、大声やむやみにしょうげきをあたえないようにしたいです。

「つばめ調査」

野々市市立富陽小学校 6年 櫻井 結衣

つばめ調査をして、私たちは古巣しか見つけることができず、それにつばめは見つけれませんでした。だから私は、中林一丁目はつばめにとってすごしにくい場所なのかと思いました。つばめがえさにするのは田んぼなどにいる虫だとききました。最近、前は田んぼや畑だったところは、道路や家になっています。新しい家が建ったり、道路ができたりすると田畑が減り、虫も減ります。虫が減ってしまうことで、つばめはえさを食べられなくなってしまい、他のところに移ってしまうんだと思います。

私が低学年だったころは、今は古巣になってしまっている巣につばめがいて、巣の近くを通るときにはよく、つばめがいるか巣を見ていました。でも、最近は見かけないので少し悲しいです。田畑などの自然が減ってしまうことでえさが減り、つばめがこなくなってしまうので、私は、自分ができるはんに自然を守っていきたいです。